



## とばっこげんきっこに すこやかに

vol.229

一年のうち、最も短い時間が短く、夜の時間が長いとされている冬至。この日を境に、夜の長さが徐々に長くなるため、古くから運気の上昇や無病息災を願つて「がばちゃんやを食べる」「ゆず湯に入る」といった風習があります。

## KIDS PHOTOGRAPH やんちゃっこ



タマン キサラロちゃん

令和6年11月30日生まれ(幸丘町)

よく笑う娘で、みんなもつられて笑顔になります♥

## あまえっこ



竹内 ひより陽和梨ちゃん

令和6年11月5日生まれ(若杉町)

お誕生日おめでとう!  
たくさん食べて大きくな~れ♡



満1歳になる元気なお子さんの写真(デジカメ画像可)に25文字以内のコメントを添えて、広報情報係へお送りください。メールでも受け付けています。

✉ koho@city.toba.lg.jp



濱口 はるちゃん

令和6年11月27日生まれ(小浜町)

我が家のもちむち怪獣はる♡に一に大好き  
でいつも遊ぶ姿を見つめてるはるです♡

人口が減り過疎が進むということは、さまざまなもので不便が生じ、故に過疎化が加速するというスタイルにおいてしまいます。特に、買い物、医療、通勤、通学などでの利便性を維持していくことは行政の使命ですが、鳥羽市は多くの課題に直面しています。

市営定期船は、4つの有人離島2500人の住民と観光客の大重要な移動手段です。ところが、ここ数年、定期船の乗組員の不足が常態化しています。年中休みなしの定期船運航には大変な労力を伴います。

一隻の定期船を運航するには、船長、機関長、甲板員の3名が必要で、基本的には交代要員も含めてのチーム編成になります。しかし、離職や休職の影響で人員不足が顕在化し、現状では時間外勤務に頼らざるを得ない厳しい運用体制となつており、第一に優先すべき「離島航路の安全運航」に赤信号が灯り始めました。限り利便性は確保しながら

医療に関しては、8つの僻地診療所を開設していますが、過疎化の影響は、患者数の減少に顕著に見られます。医療人材の確保も難しくなっていきますが、1人の医師が広範囲をカバーしながら、患者さんが家の近くで診療を受けられる便利さを高めるため、「オンライン診療」や「医療Maas」を取り組んでいます。全国的にも注目されており、新たな仕組みで地域の診療機会を守つたいと思います。

も、現在の5隻体制を4隻に減便し、それに伴うダイヤ改正について協議をしなければならない状況です。

また、公共交通は、ネットワークとして広くつながることで相互が補完しあうことから、利用者の利便性向上や誘客の促進に向けて、キャッシュレス化を進める必要があります。三重県と連携しながら、JR東海様において交通系一ICカードが全域で利用可能となるよう働きかけてまいります。

## 小竹篠市長の 変革のスイッチ

### 地域インフラの 機能維持のために

vol.07

